

改革派の賛美歌

寄贈いただいた楽譜のなかに「カルヴィン韻律詩篇歌集、1539年初版写本と邦詩歌詞附、木岡英三郎編著」という貴重な一冊があった。カルヴァンの韻律詩篇の重要さとその資料については以前「資料室だより28」に書いた。カルヴァン派の賛美歌、つまりジュネーブ詩篇は、カルヴァン派が誇る伝統的な賛美歌集であり、カルヴァンの神学と不可分の音楽である。“他教派への輸出品”などと称されるほど影響力があるものだが、日本では、この木岡先生が1957年に出された同書が出版されるまでは知られることがなかった。この讚美歌集にはありがたいことに初版のファクシミリがついている。旋律が16世紀の記譜法で記されているものと現代譜として4声体の和声付けがなされたものが一緒になっている。ジュネーブ詩篇とってイメージがわかなければ、プロテスタント諸派が愛唱する「あめつちこぞりて」はジュネーブ詩篇の代表である。

またバッハのオルゲルビュッヒライン、マタイ受難曲他で一般の音楽愛好家にもよく知られている O Mensch, beweine deine Sünde gross (おお、人よ、汝の罪のおおいなるを嘆け) も実はジュネーブ詩篇のなかにある。Evangelisches Gesangbuch 76 (ルター派ドイツ・コラール集)にも、またドイツのカトリック教会が使う Gotteslob にも所収され、宗派を超えて広く愛唱されているものである。日本のプロテスタント教会では「人よ、汝が罪の大いなるを嘆き、悔いて涙せよ」という歌詞で親しまれている。日本基督教団の「賛美歌21」は従来のテキストに大幅に手を加えたが、この曲はこのまま伝統的な訳詩を守っている。さて、この有名な「おお、人よ・・・」の原曲、つまりカルヴァン派の韻律詩篇はフランス語であるから、これも En moy le secret pensement という歌いだしで始まるフランス語である。

この楽譜の序文に木岡先生は「歴史の厳粛な真実性と神秘を忘れてはならない」とお書きになっている。1994年に日本改革派はジュネーブ詩篇の日本語版を抜粋を実験的に出し「美しい日本語によるジュネーブ詩篇」を目指した。

よく聴きなれたこの旋律を、初版のオリジナルの楽譜にも目を通しておくというのは意義のあることではないだろうか。

請求記号は MC6/J95/3

杉本ゆり